



サークル・アクメハゲ
作者・ジョー長谷川

全30ページ

インテリ爆乳妻が
巨根ショタチンポ
に墮とされる話

アルノマリヤ族
未だ謎に満ちた部族の名前です

彼らは近代的な生活を避け
二万年前から続く
独自の文化を守り

一般的なメディアはおろか
世界の民族学会ですら
情報は掴めていないのです



最果ての密林に姿を隠し
研究学者が来る都度
部族の長がよそ者を
追い返すのです

私の夫である民族研究者の国枝壮一も
同様に追い出された内の一人でした



今回は助手兼妻である私が
夫に代わって村長との交渉に来た
というのが今回の話のあらましです

押しの弱い夫の事だから
伴侶である私がサポートしなくては

第一、最初から私を
連れてくるべきだったのよ

なんで研究所に
私を残して行ったのよ

いやあ、男としての
プライドがあるからなあ

いつもお前ばかりに
無茶させてはなんだと
思ったんだがね……

もっつ！二度手間なんだから
とにかく私が上手くやるわ



数時間後
村の門の前にて

懲りずに来おったな……
ふむ、今度は女連れか……

国枝壮一の助手兼妻の
国枝道子と申します
今回は村長さんが納得出来る
お話を持ってきましたので……

話はいいい！
ちよいとお前さん
荷物と帽子を外して
体を見せてくれるかの

くるつと体を回してみい

へっ？
一周体を
回せばいいのですか？

そっじゃ
早くせい

あのっ

ふう
ふう

特に凶器や隠しカメラ等は
所持してはいないのですが

ド
ン
ッ

ゴ
ン

これならアイツも満足するじやろう

良からう

今回は特別に村を見せてやる
荷物はこちろで預からう

まあ！
本当ですか？

有難うございます！
ご協力感謝します！

秘境の部族と言っても
スケベなお爺さんは
どこにでもいるものね！

うーん

今まで取材を拒否してきた
部族なんだけれどなあ
あっさり色仕掛けで通るなんて……

村の中でそちらの言葉が
使えるのはワシだけでの

案内はワシがしよう

アンタ等も運がいい
今日は村で一番の美女を決める
祭りが行われとる日じゃ

娯楽らしい娯楽が無いので
村の男達も騒いでおるわ

美女を審査するのは
ワシの倅でのお
楽しむと良い

ウオオッ！！
ウオオ！！

がや
がや

がや
がや

優勝者には賞品でも
与えられるんですか？

優勝者しか
入れない
貴重な遺跡に
招待するのじゃ

久しく優勝者が
出んでのお
ワシの倅の審査が
厳しいのじゃ

貴重な遺跡?!
このお祭りは私のような
部外者でも参加可能ですか？

この時私は秘密の遺跡をネタに
夫を一躍有名に出来るのではないかと
躍起になっていました

参加できるとも

ただし着替えて
貰わねばならんがの

うう…
参加出来たは良いものの
裸同然じゃないの

先程まで騒がしかった
村の男達は初めて見る
外部の女性である私の体を
舐めるように静かに見つめていました

辞退しようとも思いましたが
夫の名誉が掛かっている事を思い出し
恥を忍んで裸体を晒す事に
決めたのです

私のおっぱい
見られてる……
恥ずかしい……

言い忘れておったがの

優勝者の乳房には
『接吻』をする決まりじゃ

えっ?!
ちよちよ
ちよっと待って

突然の言葉に戸惑う私を尻目に
族長の息子は私の乳房に
顔を近づけました



幼い唇は私の乳房を
口いっぱい頬張り
およそ子が母に対する
愛情表現の様な
『接吻』とは呼べぬ程
卑猥な舌使いで
乳首を転がし出しました



チュバ チュフ

やだっ



私っしたらはしたない声を
出してしまうなんて



声を押し殺し
快樂の波に耐える
以外私には術が
ありませんでした

主人の前であまりに幼く
男と呼ぶには早い存在に
良い様にされるのは
この上ない恥でした

子供相手に何を言える訳でもなく
相手の部族の文化を受け入れる

嫉妬とも興奮とも取れる
主人の顔は新鮮でした

短い接吻が終わると
蜘蛛の糸のように伸びた唾液が
名残惜しいかの様に私の乳頭と
彼の口に橋を架けていました

視線を下に降ろすと
まるで何事も無かったかの如く
澄ました目が見えました

しかし彼の瞳は
品定めを
続けているような
そんな気配を
感じました





それにしても
恥ずかしいわこの格好

ここにいる間
ずっとコレなの？
変じゃないかしら？

そんな事ないさ
今日の君は一層綺麗だ

この村一番の美女が
僕の妻だなんて
幸せだよ

あら、嬉しい事言ってくれるのね
ご褒美にキスでもあげようかしら

異国の地で二人きり…
久しぶりだわ…
こういうキスって

さっきまでは
後悔してたけれど
悪くないかも

こういう時に限って
押しが強いんだから…

プロポーズの時も
こんな感じだったわね

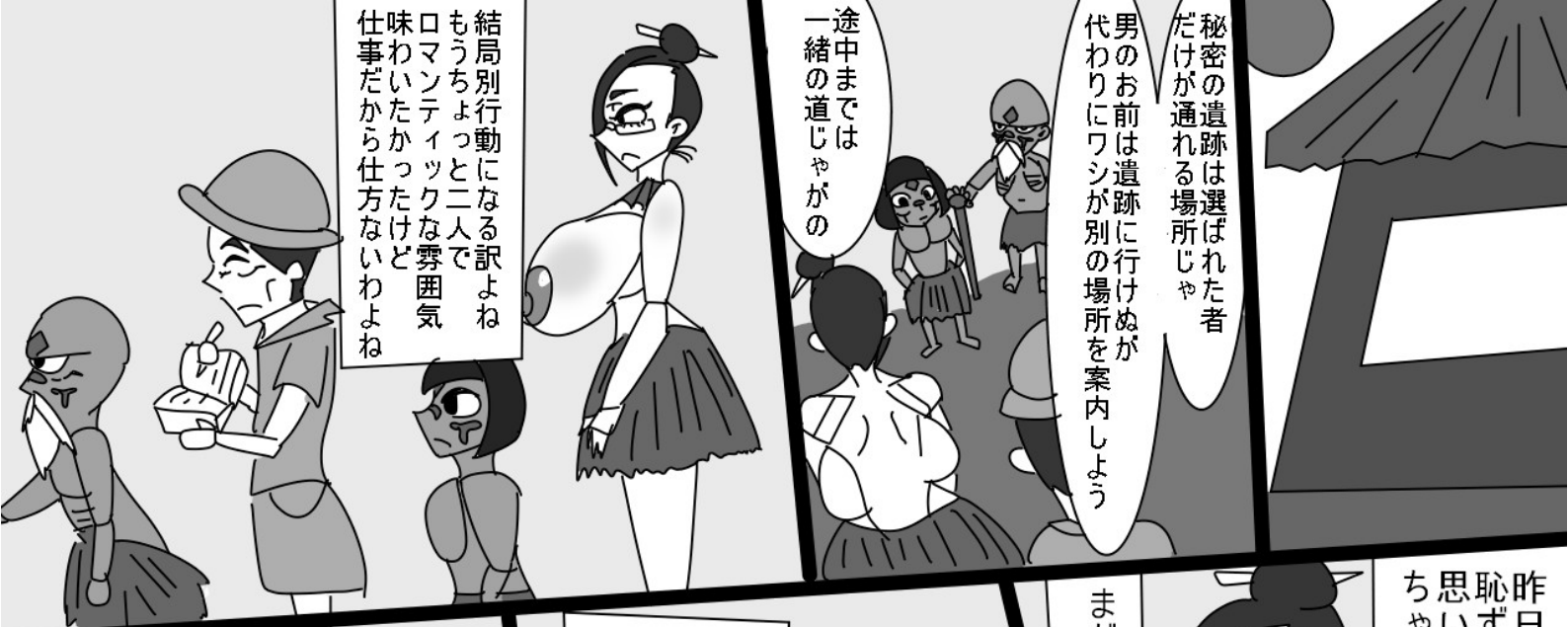
明日は早いから
もう寝た方が良くぞ

すみません！
すぐ寝ます！

言い忘れて
おったがの

やっぱり
ここまで来て
損してるかも

バわッ…



結局別行動になる訳よね
もうちょつと二人で
ロマンティックな雰囲気
味わいたかったけど
仕事だから仕方ないわよね

途中までは
一緒に道じゃがの

秘密の遺跡は選ばれた者
だけが通れる場所じゃ
男のお前は遺跡に行けぬが
代わりにワシが別の場所を案内しよう



なーんてね

早く私も赤ちゃんを産んで
この子みたいなの
可愛い子に育てたいなあ

まだ子供なのよね

昨日はこの子に
恥ずかしい
思いさせられ
ちゃったけれど



スッ....

昨日のは偶然いやらしく
なってしまったけれど
成長期だから当然よね
女性の体に興味が出る年頃だもの



え？嘘でしょ？
私のアソコに
指入っちゃってる！

グチョ...

この部族の儀式とか
しきたり関係なく
女性器に指が
入っちゃってる！

ちよっと何やってるのよ！
夫の後ろでこんな行為するなんて
非常識にも程があるわ！



バレたら終わりよこんなの！
あの人にバレないように
叱らなきゃ！

彼の小さな指は
巧みに動き
私の中を掻き乱し



乳房を愛撫された時より
私の女としての性を
刺激してきました



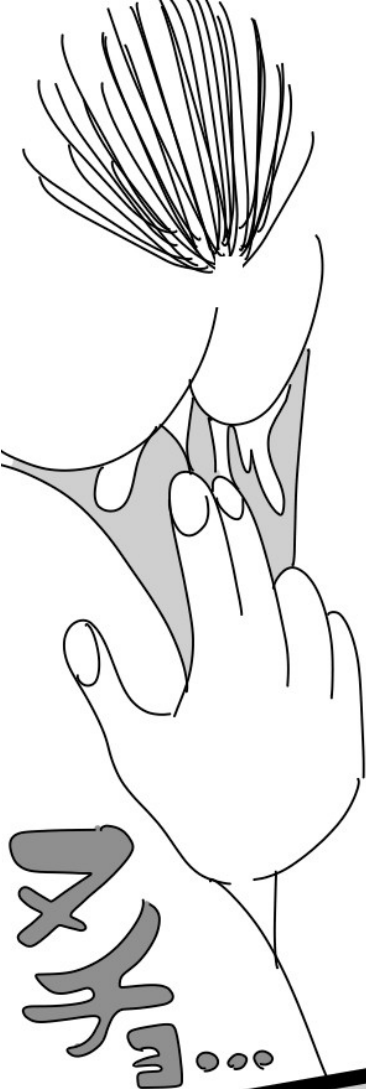
様子を...あつ...
伺って...んんう...
叱って...ッ...
あげなきゃあ...♡

あ♡

心の中で必死に快楽に抵抗しながら
歯を食いしばり、体を強張りらせ
彼の指が満足をするのを待ちながら
耐えに耐えました

この子……♡
上手すぎっ……!!

いつまでする気なの……♡
もうっ……♡



指を引き抜くと彼は自分の手に
ベットリとついた私の愛液を
これ見よがしに舐めていました



相手の一連の行動に
私は恐怖と羞恥の感情を
彼に対して抱き
危機感を覚えました



アナタ……
あの、私……

フラ
フラ……

ん？
どうかしたのかい？
顔色が悪いよ？

さて
分かれ道に着いたぞい

遺跡の案内は
丸一日かかるけどもの

ズイ

倅がしっかり案内
するから心配はいらんぞ



アナタ……私ね……

私その子に……

……やっぱり
何でもないわ

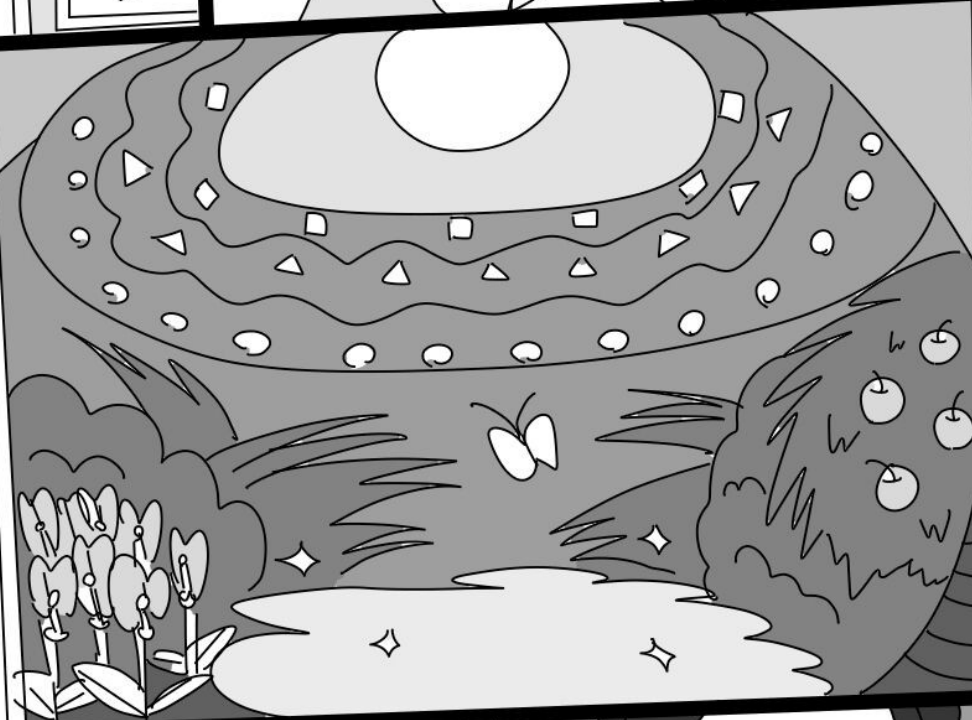
遺跡の事に関しては
しっかり記録しておくから
安心して

夫の研究のためにも頑張ろう
いざとなればこの子を叱ればよい
様々な言い訳を考えました

この時私は怯えつつも何かに対して
期待していたのかもしれない

これが本当の『別れ』道になるとは知らずに
軽い気持ちでそれを望んでいたのかもしれない

目的地の遺跡はとても美しいものだった
大きなドーム状の遺跡のに入ると
丸くくり抜いた天井からは太陽が覗き
水面に光が反射し内部がよく見えまた



遺跡の模様
丸々と実った美味しそうな果物
色とりどりの鮮やかな花々
透き通った泉
まるで遺跡の中が小さな島で
あるかの様でした

まあ！
なんて綺麗なのかしら！

こんな素敵な場所が
存在するなんて！



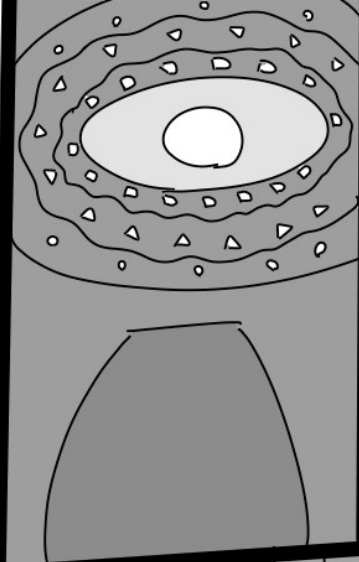
ゴゴゴゴゴ



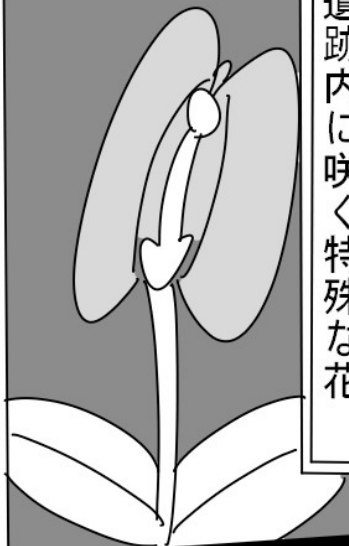
ちよっと！
なんで閉めたのよ！



後にわかった事ですすが
この遺跡は『獣の間』
と呼ばれています



扉を閉めた瞬間
風の流れが留まって
遺跡内に咲く特殊な花



『クアメヤシロ花』が出す
フェロモンガスが遺跡内に充満し
結果、獣のような性交に至るため
『獣の間』と呼ばれているのだそうです

おおおオオオッ♡

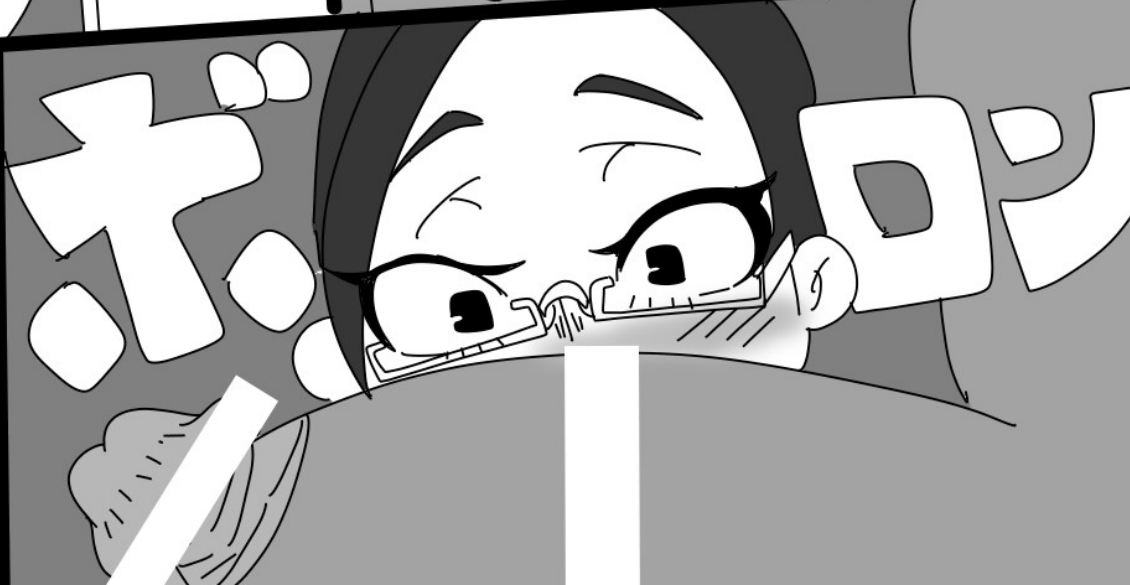


効能としては
発情させるだけではなく

性器を刺激し
感度が過敏になり
思考が低下する
効果があります



なにコレえ♡



チンポ……？
これチンポよね？

こんな大きなチンポ……
初めて見た……♡

見たことの無いサイズの
男根に困惑し私はそれが何なのか
一瞬わかりませんでした

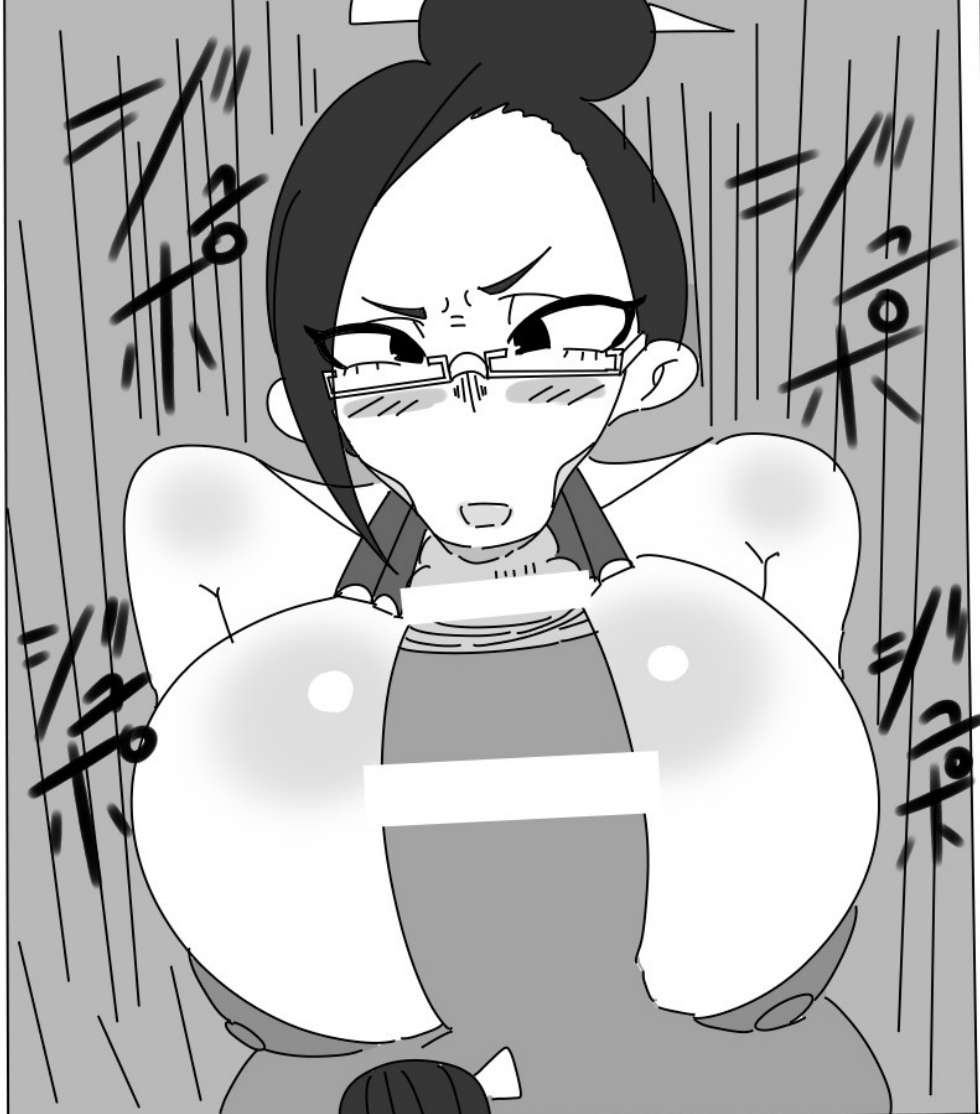
男性器であると認識すると
同時に私の息は荒くなり

夫に対する貞操
観念が吹き飛び

理性が崩壊し
大きなそれを
貪りました

ズズズ♡

花の催淫効果で淫らになった私は
一心不乱に性器をしゃぶり倒し

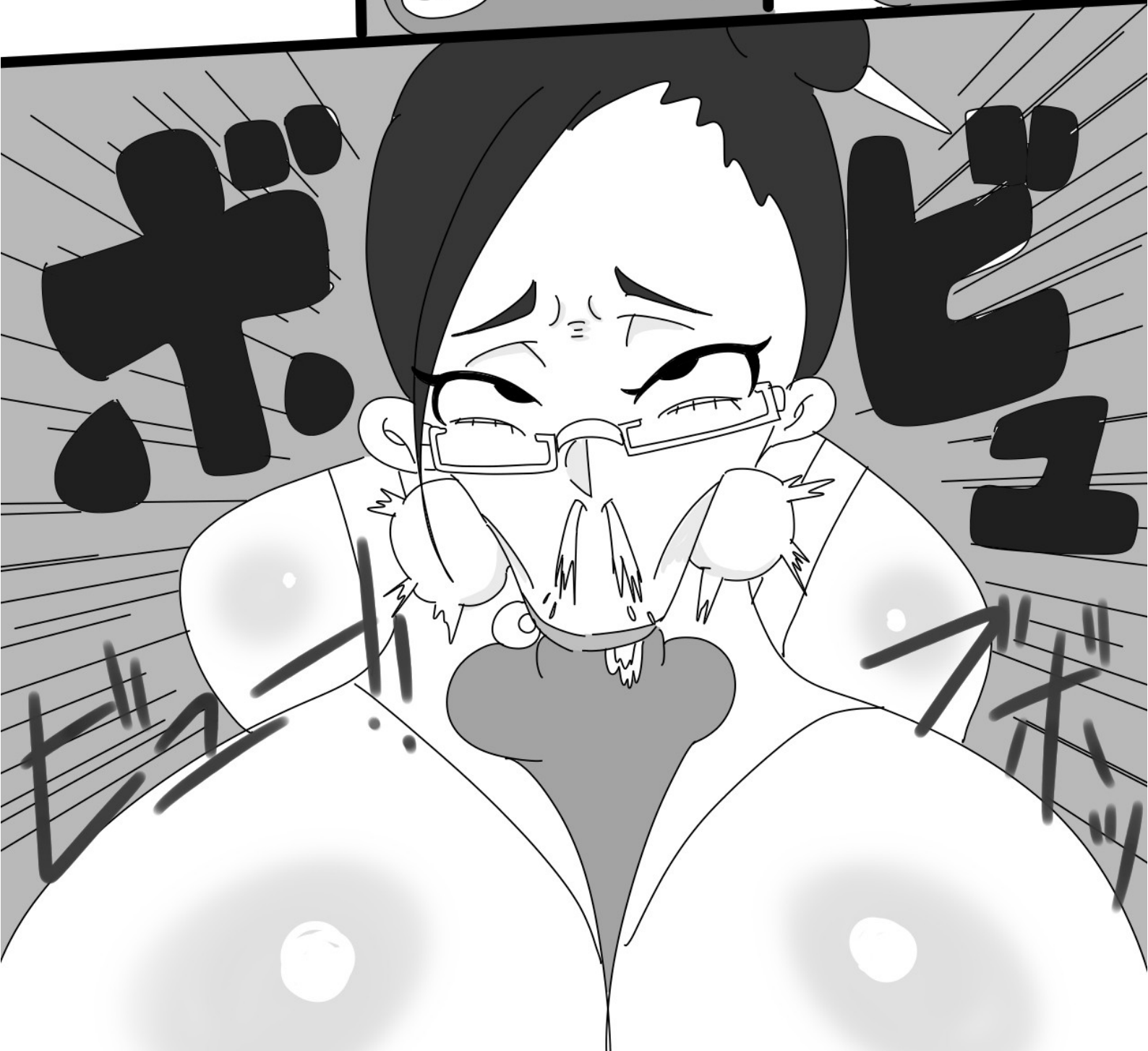
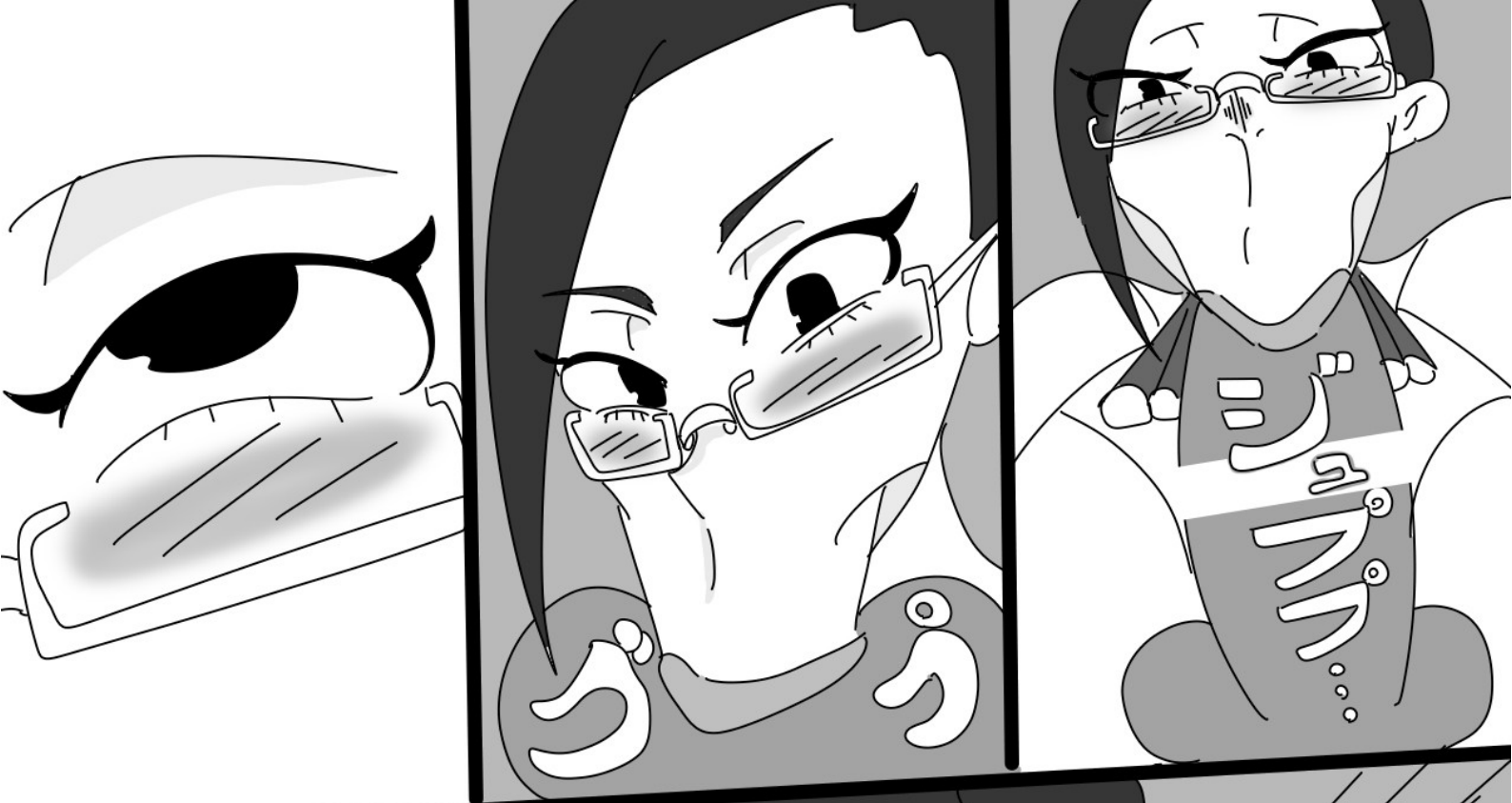


口を窄めて亀頭を嘗め回して
竿と口を一体と化すかの如く
獲物を吸い上げました

両手でしっかりと彼の太ももを掴み
全身全霊を持ってしごき上げ



頭を上下に動かす度
私の秘所から愛液が迸ります



大量の射精を口内に受けて溜まりに溜まった精液を喉に一気に流し込みました

飲み込み切れなかった精子が鼻と口から漏れ出して咽かえる臭いに私は喜びを感じ

これだけの精液を別の場所に出したいという欲が出てきたのです

ジュルル

腰蓑を脱ぎ捨て臀部を男根に寄せて

私は四つん這いの姿勢になりました

ム

ムキッ

サ



フブフ...



何よ！
痛いじゃないの！

誘ってきたのは
そっちでしょ！



散々私の体弄繰り回して
今度は突き放すの？！

私を犯したいんでしょ？

やらせてあげるんだから！
早くそのデカチンポ
寄こしなさいよ！



ズイ

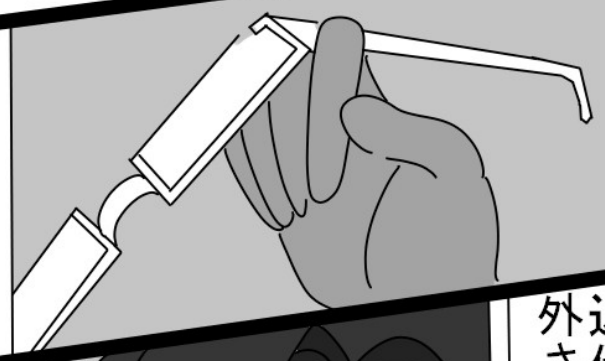
な、何よ

何か文句でもあるのっていうの？

彼は腕を私の顔に近付け



眼鏡と髪留めを外しました

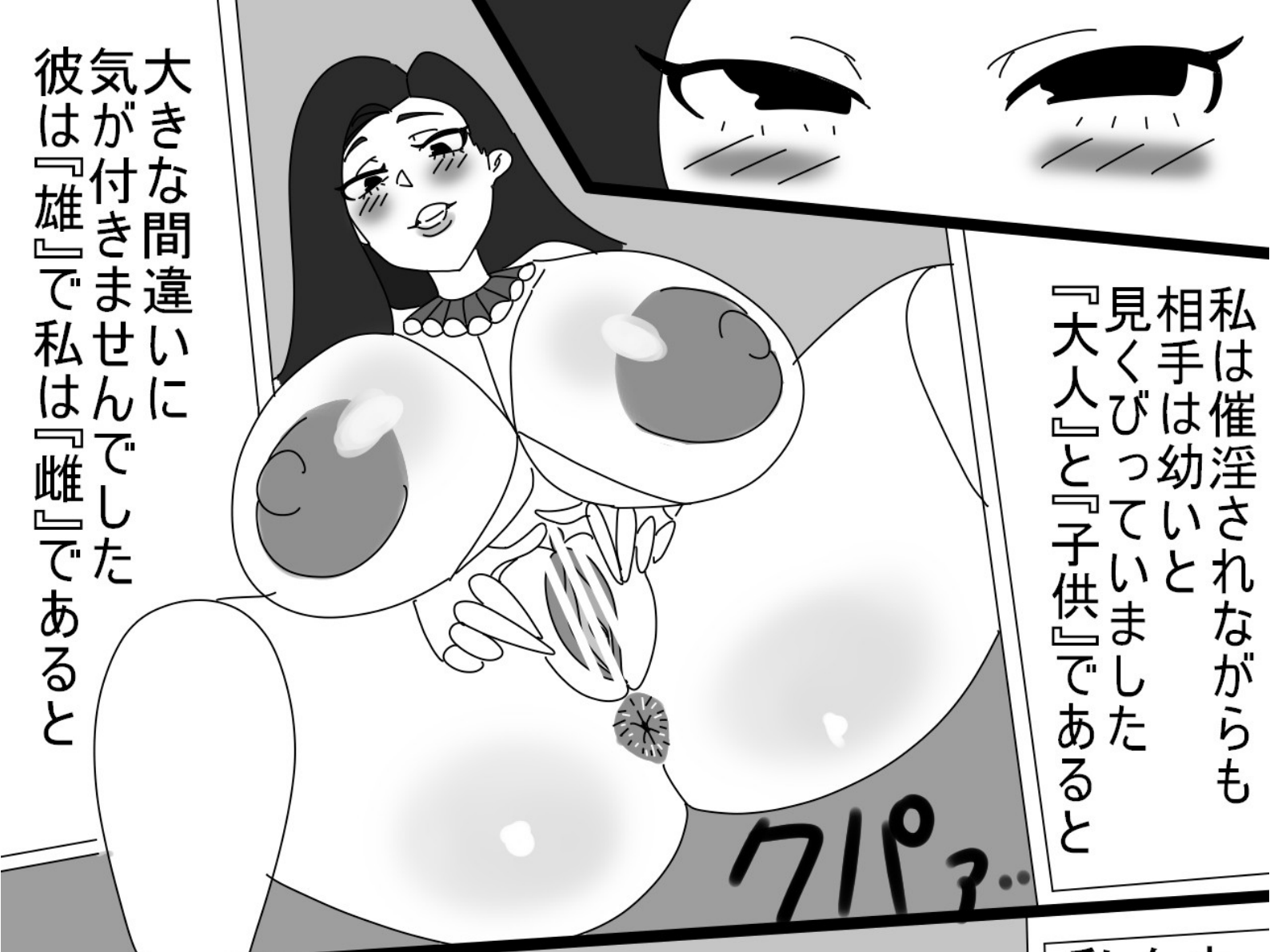


私がかつて属していた近代文明の装飾品が外されたのです

それは言葉ではなく行動で告げられました

『野生に還れ』と





私は催淫されながらも
相手は幼いと
見くびっていました
『大人』と『子供』であると

クパッ..



あの乳房の愛撫も
女性器への愛撫も
私に拒否権はありませんでした

大きな間違いに
気が付きませんでした
彼は『雄』で私は『雌』であると

服従するべきは
私だったのです



ボロボロに
なるまで犯して
ください♡



チンポが…



ああ…来るわ



チンポ
来たあ!!

ズバッ

A black and white illustration of two birds in flight over a stylized landscape. The bird on the left is higher and further away, while the bird on the right is lower and closer. Above the left bird is a musical notation consisting of a single eighth note. Above the right bird is a musical notation consisting of a quarter note followed by an eighth note. The landscape is represented by simple, rounded shapes.

ああ、そうじゃ

「――」帯に生息しておる『雌』の獣じゃな

発情期の雌が興奮しておる

獣
か
あ

どんな姿を
しているのだろう

そして『獣の間』の名の由来はもう一つあり

洞窟で反響した喘ぎが獣の如く村中に響き渡るのだそうです

人生で最大級の快樂が
挿入した瞬間に訪れ

絶頂の余韻に浸る暇も無く
腰を打ち付ける度に
新たな快樂が私を襲います

パンパンパン
パンパンパン

グニョ
ヒクッ

乳房を激しく揉み
しだかれながら

絶頂し

自ら望んだ快樂にも関わらず
絶頂の連続に耐えきれず身を振り
逃げ出そうとしても

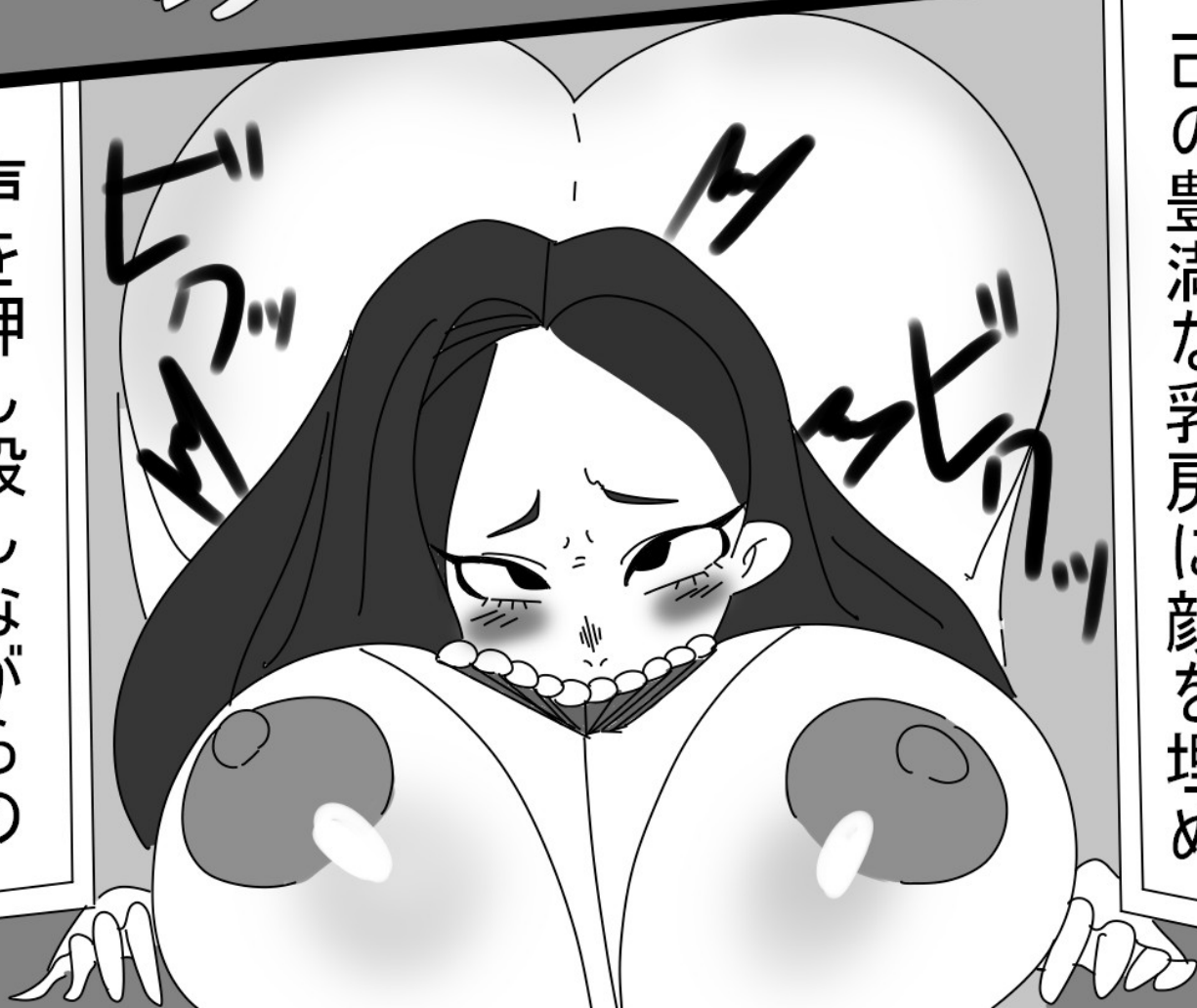


彼は私を
掴んで離さず
構うことなく
行為を続けます

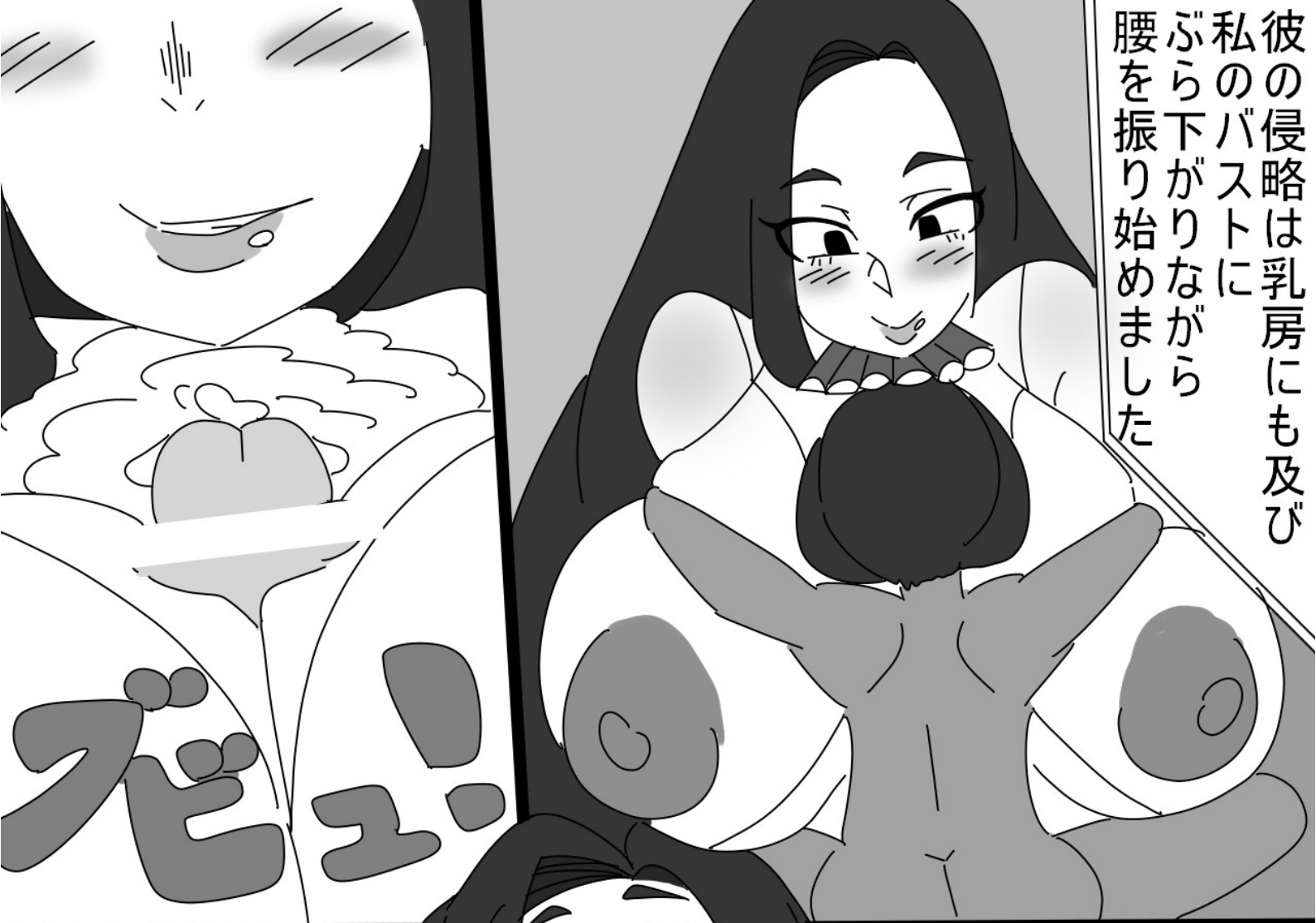
犬のように地に這いながら
己の豊満な乳房に顔を埋め

声を押し殺しながらの

絶頂

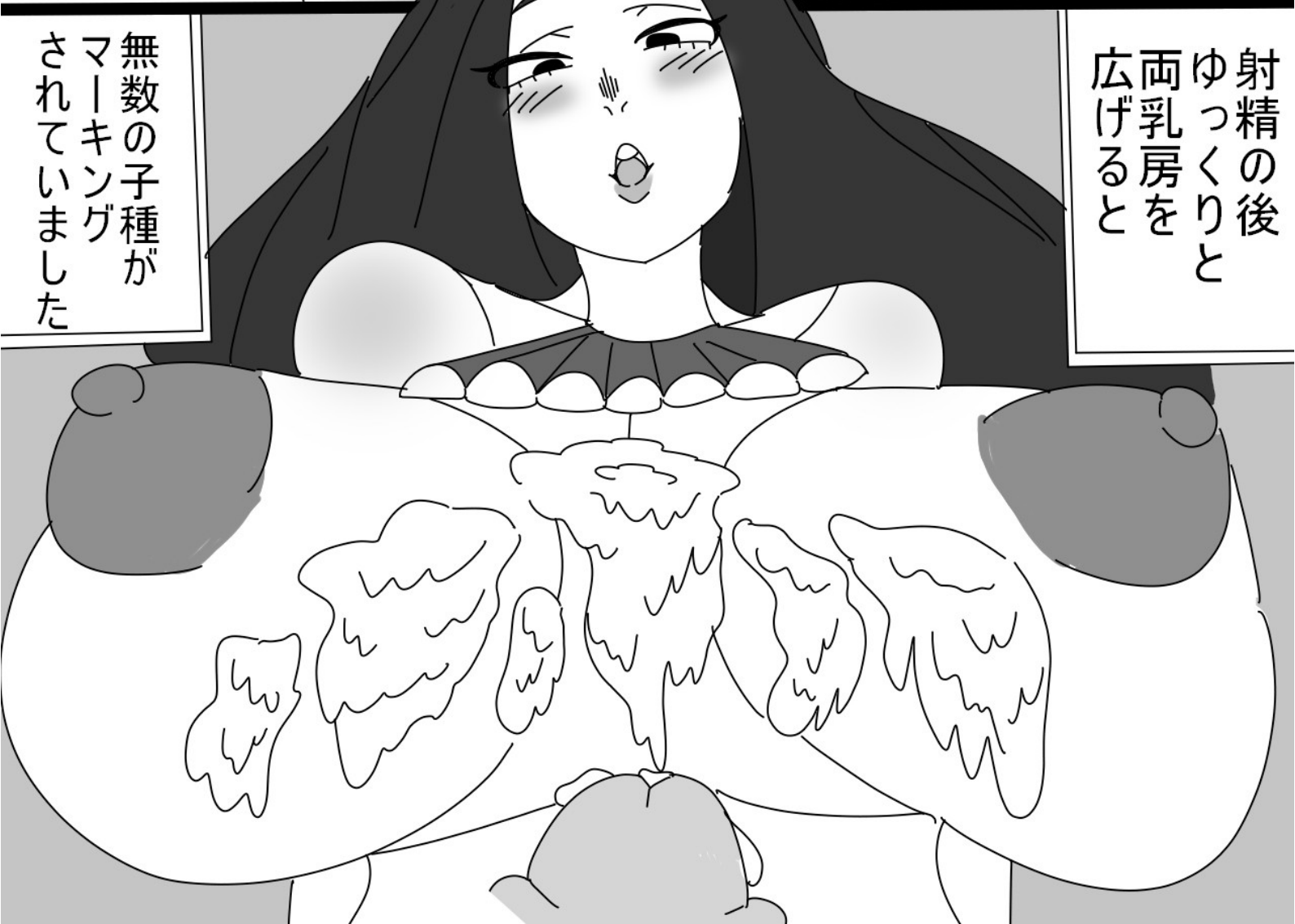


彼の侵略は乳房にも及び
私のバストに
ぶら下がりながら
腰を振り始めました



射精の後
ゆっくりと
両乳房を
広げると

無数の子種が
マーキング
されていました





果物を食す時でさえ
淫らに交わり

ひたすら穴という
穴を犯され蹂躪される

休む事の無く
続けられる交尾に
私は幸福を感じました





空が白み始める頃
扉が開くと同時に
かぼそい光がうつすら
遺跡に流れ込みました

ゴゴ

ゴゴ...

大量の精子を全身に浴び
肉の悦びの余韻を味わう
間抜けな顔になった
私の姿がそこにはありました

二十四時間
寝る間を惜しんでの
連続セックスの末

もっとお...♡
チーホ。♡



そのまま惚けている
私をお構いなしに門番は
ズルズルと外へ運び出し
どこかの小屋へと
運び出されました



気が付くと赤土色の土と水を混ぜた物を
複数の男に塗りたくられていました
これにより彼等と同じ肌色になり
仲間として受け入れられるのです

いやあ
大変お世話に
なりました

お陰でいい論文が
書けそうですよ

あつ、そういえば
妻はもう遺跡から
帰ってきていますか？

女の方は向こうの小屋に
に帰ってきておるぞ

道子
そこにいるのかい？

あら
貴方も帰ってたのね

いやあ凄い成果が得られたよ
そっちの方はどうだったんだい？

ええ……
私の方も驚きの
数々で凄かったわ……

人生の価値観が
変わる程貴重な経験……

私ね……
この村に残ろうと思うの

まだ学会の発表には
余裕があるしね

村長が許して
くれるのであれば……

違うわ

私だけ

ずっとここに残るの

……？
それはどういう
意味だい？

今までのセックスじゃ
もう満足できないのよ

研究室に籠りきりの
シナシナチンポは用無しなの

これから女の悦びを教えにくれた
このデカチンポと一生を添い遂げるわ

最後にさようなら
ア・ナ・タ ♡

……訂正するわ
もう貴方は主人
じゃないのだもの



そんな……

嘘だ……

さようなら

租チンさん ♡

